

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <https://kohoku-saibora.jimdo.com> FB 港北区災害ボランティア連絡会

第 58 号

2017 年 10 月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

防災訓練は何を目指す

避難所運営訓練・防災フェア・地域防災訓練、どう違うの？

防災訓練には、首都圏の自治体が合同で行う九都県市合同防災訓練、県と市が合同で行うビッグレスキュー神奈川、市や区で行うもの、など各レベルで実施されます。それぞれの訓練内容はどれも発災後の関係機関相互の動きの確認です。その中で最近では外国人、障害者、女性などに配慮するような動きとともに、被害を軽減する啓発の工夫が求められています。そのためには地域防災力の強化が必要とされています

減災行動へ導く訓練

災害対応力を高める訓練やイベントは、これからの時期、地域防災拠点の訓練が各地域で行われます。区内でも10月1日には日吉地区の5拠点(矢上、日吉台、日吉南、駒林、下田)が同時に訓練を行うと言う初めての試みが行われました。地震災害は区内同時に起きますから、実際的と言えます。

一方防災フェアと称するイベントも有ります。これは防災対策啓発を楽しいイベント風に行うものです。会場は一般の人々が多く参加しやすい場所で開かれ、小さなお子さん向けのショーなども入れながら、多くの人に防災知識を伝えて行こうとするものです。

また拠点訓練とは別に町内会が独自に防災訓練を行う場合も有ります。

それぞれ開催形態は違いますが、防災意識の向上とその結果の減災行動へ導く目的は同じです。

参加者が増える訓練にするため

一番多く地域住民が参加するのは地域防災拠点(指定避難所)の訓練でしょう。しかしこの訓練への参加動機には結構微妙なものが見られます。「自分がお世話になるかもしれない所の訓練だから行

かなくちゃ」と言う人もいれば、「一応付き合っておくか」と言う消極的なタイプもあり、「毎年同じだからもういいよ」と言う人もいます。企画する拠点運営委員会もいろいろ工夫をしていますが地域差はあるようです。では参加者にとってはどんな訓練が望ましいでしょうか。拠点の訓練でも前述した防災意識の向上と減災行動へつなげる仕組みは必要です。

そのために必要な条件を考えてみましょう。

◎参加して役に立ったと思える訓練

当然ですが、こう思わせないとリピーターは増えません。毎回参加者に新しい人が多いと地域防災力の向上は難しくなります。

◎見学型から参加型へ

運営側ががんばりすぎて展示型、見学型になってしまうと、住民には役員さん達がここまでやってくれるんだとの期待や誤解を生じかねません。この場合の参加とは、訓練中の一部分をちょっと体験すると言うのではなく、訓練全体に参加していく形のプログラムが必要になってきます。



神戸市中央区の小学校避難所 1月17日

神戸市提供

例えば、発災当初の避難所には混乱があり、それをどうしたら解決できるのかを考えてもらうこ

とが必要です。そうすると最初から1m×2mのスペース確保は当然無理とわかります。そのスペースを確保するためにはどんな条件が必要になってくるのかを知ってもらった上で、避難して来た住民相互でどう知恵を働かせれば良いのか、という突きつけをすることも必要になります。訓練内容にクイズを設けるなどの工夫をすれば受け身の姿勢から学ぶことへつなげやすくなります。

そういった参加できる部分を多くし、その経験や知識を自宅の減災行動につなげられるようなお土産を考えることがとても大切になります。

◎訓練目的をはっきりさせる

そうすると企画側では今回の訓練では何を獲得目標とするかがはっきりしてきます。単に「避難所運営」の全体を大雑把に実行しただけでは、災害時のどんな場面で役に立つのかがよく見えません。発災後の各段階（フェーズ）を分析し、その中のどの部分を訓練しているのかをはっきりさせれば参加者にとって訓練内容が明確になりよく見えてきます。

1月19日蓮池小学、災害特設電話を利用する列。

窓には安否確認の紙が多数張られている。神戸市提供



訓練目的を分かってもらうためには、「紙」が必須です。訓練で持ち帰ってもらいたいこと、知っておいて欲しいこと、自宅ですぐできることなどを記したチラシを用意し、参加して経験したこと、考えたことをはっきりと出来るようにします。

◎楽しく学べば防災知識のお土産の持ち帰りが

問題意識を持ってもらえなければ行動化にはつながりません。ある程度危機意識を持たせることも必要になります。

一番大切な家族の命をどう守るかを真剣に考えてもらう機会は家族で参加することが多い地域防災拠点訓練です。折角の家族で考える機会を有効活用できる企画作りが大切です。

(宇田川)

ビッグレスキューに参加して見た大量炊飯の課題

9月1日(金)に小田原市の酒匂川スポーツ広場で開催された、九都県市合同防災訓練に参加しました。今回は、港北区災害ボランティア連絡会としてではなく、ボーイスカウト神奈川連盟(以下「BS 神奈川」)の一員としての参加です。

BS 神奈川では今回約30名のスカウト・指導者が参加しました。15名は神奈川県災害ボランティア連絡会と協力して、「ボランティアセンター立ち上げ訓練」を行いました。中島は、残りのメンバーといっしょに、ハイゼックスを使った炊き出しの実演と試食です。4,400枚のハイゼックスを使い、55kgのお米を炊き上げました。試食した参加者からは、「美味しく炊けている」と驚きの声を多くいただきました。

しかし課題もありました。ボランティアセンター立ち上げ訓練参加者に、「昼食用の弁当として、炊飯したお米をハイゼックスのまま渡す」というプログラムがあり、特別に「カレー風味」のものを用意したのですが

1:ハイゼックスで炊飯した米は、すぐにハイゼックスから取り出してほぐさないと、お餅のように硬くなってしまふ。

2:炊飯直後のハイゼックスは熱くて、器にうつさないと実食できない

という問題が発生し、計画通りに「弁当」としては配布できませんでした。

災害時の手軽な炊飯方式として紹介される、ハイゼックスによる炊飯ですが、大量にタイムリーに提供するには、少し課題もありそうです。

(中島一郎)



訓練当日のボーイスカウトのブース

付岡さんちの防災

私はもともと買い置きが得意でなく、缶詰・レトルト食品・ペット飲料は殆どありませんでした。でも何年か前から、いざという時の為、少し買い置くようにしました。米、水、缶詰、インスタント食品、簡易トイレセット、トイレトーパー、ビニール袋(大きささまざま)、カセットコンロ、予備のカセット。

水は買い求めた物(2ℓを2箱)に加えて、空のペットボトルに水道水を汲み置きしたものを10本程度、それを5日ぐらいで回転して使用しています。主に煮炊きと台所の洗い物用です。キャップに日付をメモしています。外の物置にも生活用水としてもう10本程(水道水)置いています。

懐中電灯については、以前真っ暗の中を他の部屋まで取りに行った経験から、各部屋の入口にそれぞれ置くことにしました。

我が家で古くから活躍している石油ストーブが2台あります。季節が終わると主人が分解・掃除をしてくれています。今では1年中灯油を18ℓ位は置くようにしています。



ガラス飛散防止フィルムを貼り、開き戸安全ロックを取り付けた戸棚

それぞれの家庭の生活状況で備蓄や防災方法などは違うと思いますが、

- (1) 整理整頓(足元に物を置かない)…備蓄より減災
- (2) 備蓄は大切ですが、あまり多くの物を買いきれないというのが私の防災対策です。(付岡)



みんなちゃんと準備しようね

「大倉山みんなの食堂」というセーフティーネット

災害時の混乱を最小限にし、その後の回復に繋がる一つの力が、日頃からの地域の様々な活動です。特に日頃から困難を抱えている家庭は、災害後の立ち直りは容易ではありません。それをサポートする力の新しい試みが始まりました。

昨年より、寄り添い型の学習支援をしている場に、「おむすび」と「具だくさんのお味噌汁」を約20食分届けるというボランティアを、周りに呼び掛けて始めました。カフェの厨房を使うことで、あまり負担なくできたので、次は地域食堂としてもっと開かれた場づくりをしようということになり、「港北に子ども食堂を作る会」を災ボラのメンバーも複数いる仲間と立ち上げ、今年1月より「みんなの食堂」を始められました。

会場は、大豆戸のモアかれんです。かれんは作業所でもあるので、通ってこられるメンバーさんも、はじめのころからボランティアスタッフとして活躍してくれています。小学生から80代までのボランティアに恵まれており、毎回楽しく夕ご



ちようど誕生日だった常連の小さなお客さんにお客様、スタッフ一同でハッピーバースデーのお祝いをしました

飯とおむすびの提供が続けられています。日時は毎週第3火曜日の17時からです。

普段は開いていない夜の作業所カフェは、夜もきれいなので、目の前の道路の通行人の期待を集めています。もう少しじっくり続けていけば、「気になっていたんです」という人が来てくれるかもしれない、作業所の敷居の高さを外すお手伝いができたらと思います。そこで、障害のある人も

ない人も、大人も子供も一緒になって、みんなでご飯を作ったり運んだり、温かく豊かな場に育ってほしいと世話人一同、考えています。米や、食材もたくさん寄付をいただけています。

このような場を通して、地域に顔の見える関係を作っていくことが、セーフティネットになっていくということも、毎回の「みんなの食堂」から、学んでいます。引き続き、ボランティア、食材の寄付等お待ちしております！

(大倉山ミエル 鈴木智香子)

お勧め本

「“町内会”は義務ですか？」

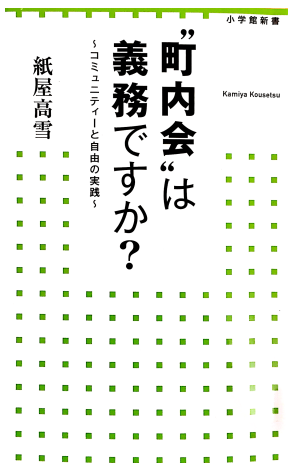
紙屋高雪著 小学館新書

町内会は防災対策の力として期待されています。横浜では地域防災拠点での避難所運営を任されています。しかし日常の町内会活動への住民参加はそれほど熱心ではありません。ましてや役員を依頼されれば、とんでもない、と多くの人は逃げ腰になる

でしょう。本書でも触れられていますが、会長の仕事量の多さは半端ではありませんから。この本は前町内会長の突然の死から、役員たちに懇願され「形だけで良いなら会長になりましょうか」と「気安く」引き受けてしまった結果どうなったかの顛末記です。

地域によって、町内会、自治会、区、区会等名称はいろいろですが、すべて住民の自主的運営組織です。しかし、何をやっているのかわからない、めんどくさい、自分には関係ない、行政の下請け団体だろうといった感覚を強く持つてしまう組織でもあります。

「形だけなら」と引き受けた結果始めた会長職が、途方もない仕事量や諸団体との付き合いの複雑さを目にし、その中で自分の生活の範囲内で仕事をしよう、話し合いの筋を通そうとする姿勢が、従来からの活動をよしとする人々から吊るし上げを食ってしまいます。そこで自分の地域住民との話し合いの結果自分たちの自治会を「休会」とし、新たに完全ボランティアの新町内会を作ります。自分の住んでいる公団自治会で今まできちんとし



た活動実績を積みあげてきたからこそ新しい形の町内会が回っているのだとも思えますが、地域でやはり人々と活動をしたいと思っている人たちも確実にいることを教えてください。そういった人々とどう出会えるかは、やはり日頃から地域で一定程度動いていないと無理でしょう。住民が何でもあなた任せ。行政任せにせず、自分たちで出来ること、やりたいことを見つける大切さを教えてくれる本です。

(宇田川)

知って得する防災ポータルサイト

ネットにはこんなお役立ち情報がまとまったところ（ポータルサイト）があります。連絡会のHPにリンクをしておきますが、一度はのぞいてみてどんなものが載っているのか知っておくととても役に立ちます。

○国土交通省 ～2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた首都直下地震対策ポータルサイト～

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催前や開催中に首都直下地震が発生することも想定し、平時より、海外や国内に対し、適切な情報発信を行うことが重要です。

という目的での開設ですが、日常から見ておくと薬立ちます。

●「防災ポータル2020」で検索

防災は内閣府のHPが全般的なものやボランティア関連も載っていますので、こちらも大切なページになります。特に広報・啓発活動のページは役に立ちますよ。

●「内閣府防災情報のページ」で検索

編集後記

☆拠点訓練が一番多い時期です。住民の防災・減災につながる訓練を提案したいものです。(宇田川)

☆今年の夏の天候は定まらず、各地で水害・土砂災害が発生しました。自分の地域の事をじっくり考えたいです。(付岡)

☆「“町内会”は義務ですか？」私も読みました。お勧めです。(室伏)

☆ハイゼックスによる炊飯を行ってみて、いろいろ感じるがありました。「有効」だといわれている災害対策が、本当に役立つのか、設定をしっかりとつくって、シミュレーションしてみたいと思いました。(中島一)